

事項三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題

11月11日(着) 在オタワ松永総領事(ニ)

松井外務大臣宛(電報)

ニシテ一協約改訂内容ニ付キナハグ首相下院

ニ於テ公表ノ件

第四号

「キナハグ」首相ハ十九日下院ニ於テ前会期以来ヘ重職就職
案報告ヘ後日本移民問題ニ關シ左ノ如ク述くタリ

At the conclusion of last session the honorable
member for Como and Alberni Mr. Neil spoke to
me about the negotiations that were proceeding be-
tween the Government of Canada and the Govern-
ment of Japan in respect to the restriction of immi-
gration from Japan, and asked if I would inform

the House at that time what progress had been with-
these negotiations. I intimated that I was not in
a position to bring down the correspondence at the
time, but that I would do so as soon as the House

reassembled. I desire now to lay on the table copies
of the correspondence between the Governments of
Japan and Canada with respect to the subject of
restriction of immigration. My honorable friend
will see that the Japanese Government do not, under
the administrative measures newly adopted, con-
template that the number of Japanese immigrants
going to Canada as household servants and agricul-
tural labourers will exceed 150 annually.

臨香港へ転電ヤニ

11月11日(着) 在オタワ松永総領事(ニ)
松井外務大臣宛

B・C州開拓田マニーラー議員ノト院ニ提呈ヤ

ル排日論議ニ關シ報告ノ件

公第三一號

(四月11日接収)

大正十三年11月11日

在オタワ總領事 松永 直吉 (臣)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

11月11日B・C州選出代議士「マローン」ハ別紙(甲ノ
1) 告ヘ如ク日本移民制限問題及日加通商条約廢棄ノ問題
ニ關シ質問書ヲ提出セル處三月十四日下院ニ於テ Speech
from the Throne 討議ノ際別紙乙号ノ如ク東洋人問題ニ

論及シ

「吾人力何等東洋人問題ニ触レサランニハ政府ハ本問題

く曰リ deal issue ルナリタリト思惟ス可ケンヤB・

C州人民ハ決シテ本問題ヲシテ死セシムルモノニ非
ヌ」

ト前提シ

「現移民大臣ハ嘗テ本議場ニ於テ東洋人ノ business 11
付ハ為セルモ本問題ハ斯クノ如キ問題ニ非ス此國ノ將

來ニ關スル重大問題ナリ現移民大臣ハ商業ノ点ヲ余リ
ニ重視スル如ク思ハル」

ト移民大臣「ロシブ」ヲ攻撃シ次テ米國ノ太平洋沿岸ニ於

ケル東洋人問題調査委員會ニ言及シ右調査ノ目的及委員ノ
顔触ヲ説明シ加奈陀政府ノ本委員會參加ヲ懇意シタル後

ト移民大臣「ロシブ」ヲ攻撃シ次テ米國ノ太平洋沿岸ニ於

ケル東洋人問題調査委員會ニ言及シ右調査ノ目的及委員ノ
顔触ヲ説明シ加奈陀政府ノ本委員會參加ヲ懇意シタル後

11 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 11月11日

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 一五三

三三六

後前記「マコーレー」ノ質問ニ対シ

「本件ハ其ノ答へ得ル限り本大臣カ先刻本議会ニ提出セル書信ニ依リ答弁シタルモノト承知アリ度シ」（別紙甲）

ノ二）

ト答ヘ何等通商条約廢棄ノ問題ニ触ルルヲ避ケ居リ候

右為念往電第四号ニ閲スル議事録抜萃写相添ヘ此段及御報

告候

本信写送付先

一、在晩香坡領事

編註 別紙ハ省略ス

一五三 三月二十六日（着）

在オタワ松永總領事ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

ルミュー協約改訂内容ノ公表理由質問ノ為メ

キング首相ト会談ノ結果報告ノ件

第五号 極秘

往電第四号ニ閲シ

客年成立ノ「ルミュー」協約改訂ニ閲スル日加協定ニ閲スル現協約カ秘密協約タルニ鑑ミ本官二十二日「キング」首相ヲ訪問ノ上今回ノ議会提出ニ就キ一応ノ弁明ヲ求メタル

猶首相ハ昨年度ノ日本人労働者ノ現実入国数ニ就キ既ニ

「ニール」ヨリ質問書提出シアル処加奈陀側ノ統計ハ労働

者ト然ラサルモノトヲ大別セサル故日本側ノ統計ヲ承知シタキ旨本官ニ申出アリ本官ハ昨年七月以後ノ分ハ震災ニ依リ印刷ニ故障ヲ生シタリト見ヘ未タ接受セサルモ不取敢帝ヲ請フ

國政府ニ問合セ回電着次第通知スヘシト答ヘ置キタリ就テハ渡航者及帰國者統計表七月以後最近迄分明分至急御電報

在晩香坡領事ヘ暗送シ在英大使ヘ転電セリ
ヲ請フ

編註 1 日本外交文書大正十二年第一冊、一一八文書参照。
2 同右、一二一、一二二文書参照。

記

3 同右、一四四文書参照。

一五四 三月二十九日

在オタワ松永總領事宛（電報）

力ナダ渡航者及び帰國者表ニ閲スル件

貴電第五号後段ニ閲シ

客年ノ震災ニヨリ横浜港出入者關係書類県庁ト共ニ焼失シタル為八月分ハ作製不能其後ノ分モ調査後レシカ漸ク左記通り作製スルコトヲ得タルモ九、十ノ両月分ハ正確ヲ期シ難キニ付右ニ御承知アリタシ

民 移		再 渡	航 航	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月	計	一 月
家 内	使 用 人	呼 呼	寄 寄	女 男	女 男	一 八	一 六	二 五	一 二	〇 三	一 月
組 合	農 夫	夫 男	夫 男	二 三	六 六	〇 一	一 四	一 六	一 六	六 二	六 七
計				二 六	〇 一	一 四	一 六	一 六	一 六	一 六	一 六
女男	女男			二 六	〇 一	一 四	一 六	一 六	一 六	一 六	一 六
六七	〇 一	〇 一	〇 一	六二	〇 三						
一六	〇 一	〇 一	〇 二	一六六	〇 一						
一三〇	〇 一	〇 一	〇 一	二二七	〇 一						
一三	〇 一	〇 一	〇 一	九三	一四						
一〇四七	一〇四七	〇九	一〇四	一〇四	一〇四						
一二四	一二四	〇四	〇四	一〇四	一〇四						
二二	二二	〇四	〇四	〇二	〇二						

自大正十二年七月
至大正十三年一月 英領加奈陀渡航者

民 移 非		公 用	学 商	視 察 遊 歷	人 生	學 商	視 察 遊 歷	人 生	學 商	視 察 遊 歷	人 生	學 商	
総 計	計	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	
五七	一四五 二九	一三	二〇	七	月	八	月	九	月	十	月	十一	月
六七	一五〇 九二	〇二	一三	一五	月	一四	一四	一五	一五	一五	五七	一月	一月
一三〇	四八九 一九二	五六六	〇〇	一〇	月	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一月
二五一	五九二 二二二	一九六	〇二	一〇	月	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一月
三〇五	八三 二五九	二一四	〇三	一〇	月	五七	五七	五七	五七	五七	五七	五七	一月
八一〇	六四六	二五二	〇八	一〇	月	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	一月
八三	一一二	一七一	六六	〇五	月	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	一月

自大正十三年七月
至大正十三年七月 加奈陀ヨリノ帰国者

総 計	計	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	
五七	一四五 二九	一三	二〇	七	月	八	月	九	月	十	月	十一	月
六七	一五〇 九二	〇二	一三	一五	月	一四	一四	一五	一五	一五	五七	一月	一月
一三〇	四八九 一九二	五六六	〇〇	一〇	月	一〇	一月						
二五一	五九二 二二二	一九六	〇二	一〇	月	一五	一月						
三〇五	八三 二五九	二一四	〇三	一〇	月	五七	一月						
八一〇	六四六	二五二	〇八	一〇	月	〇一	一月						
八三	一一二	一七一	六六	〇五	月	〇一	一月						

二五五 三月三十日(着) 在ヴァンクーバー五明領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

キング首相ノルミュー協約改訂ニ関スル声明

ノ反響ニ関スル件

第四七号 極秘

本官発オタワ宛電報

第四号

本邦移民制限ニ關シ「キング」首相ノ声明ハ二十日「オ

タワ」発電トシテ当地新聞ニ伝ヘラレタルモ諸新聞トモ小

見出ニテ簡単ニ報道シタルノミニテ格別ノ反響モナク今日迄之ニ対シ論評等ヲ加ヘタルモノナシ

実ニ近年ニ無キ痛快事ナリトス

(四)抑モ国家ノ移民政策決定権ハ重大ナルモノニシテ何国ヨリモ制限ヲ受ク可キモノニ非ス而已ナラス加奈陀ノ国際上ノ地位ハ今ヤ「ルミュー」協約締結時代ニ比シ一変セリ故ニ政府ニ於テ此際紳士協約ヲ放棄シ新ニ有効ナル移民制限法案ヲ提出センコトヲ希望ス

晩香坡ヘ転電シ在米大使ヘ暗送セリ

二五六 四月十九日(着) 在オタワ松永総領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

ブリティッシュ・コロンビア(B・C)州選出議員ニールノ下院ニ於ケル排日演説要旨報告ノ件

第一〇号

日本人移民問題ニ關シ長演説ヲ為シタルカ要点左ノ通

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五五 二五六 二五七

三三九

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五七

三四〇

B・C州選出議員ニールノ下院ニ於ケル排日

演説ニ関シ報告ノ件

公第六二号 大正十三年四月二十日

(五月三十一日接受)

在オタワ

総領事 松永 直吉 (印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

四月十五日B・C州選出議員「ニール」カ下院ニ於テ排日
演説ヲ試ミタル次第並其要点ハ拙電第十号所報ノ通りニ有
之候處尚其演説ノ大要ヲ摘録スレハ左ノ通りニ有之候

余ハ東洋人問題カ多数ノ議員諸君ニトリ誠ニ退屈ナル問
題ナルヲ知ルモ最近米国議会カ排日条項ヲ通過セル事件
ニ鑑ミ本問題ハ近キ将来ニ於テ一大國際問題トナルノ形

勢アルヲ以テ余ハ特ニ地方的見解ヲ離レ國家的見地ヨリ
本問題ヲ論セントス
ト前提シ先ツ支那移民問題ニ就キ一言シ客年支那移民禁止
法制定以来五箇月間ノ成績ニ徴シ同法カ頗ル好成績ナリシ
ヲ述ヘ一転シテ支那移民ヨリ一層重大ナル日本移民ニ対シ
テモ同様ノ排斥法ヲ適用スルノ可ナルヲ説キ進ンテ「ルミ

ユー」協約ヲ非トスル所以ニ就キ論シテ曰ク
余カ先ツ本院ノ注意ヲ喚起セントスルハ移民協約ニ使用
セラレタル用語ナリトス
「日本政府ハ何々スルノ意向ナシ」此レ同協約中拘束
力ヲ有スル唯一ノ句ナリトス此レ以上確タル用語ヲ用ヒ
ス実ニ曖昧ナル約束ナリ
而シテ余ノ見ル処ヲ以テスレハ該移民協約締結ニ当リ加
奈陀ハニ大過失ヲ敢テセリ

第一ノ過失ハ該協約締結ノ原則ニ関ス即チ吾移民管理權
ヲ外国ニ譲渡セル事ナリ
第二ノ過失ハ該協約ノ適用細目ニ関ス蓋シ規定適用ノ範
囲カ余リニ制限的ニシテ日本移民全体ニ及ホシ得サル事
ナリ
尤モ當時加奈陀ハ国民トシテ未タ幼稚ニシテ對外交渉条
約締結等ニ關スル経験ニ乏シク且ツ當時ノ事情極メテ急
迫ナリシニ顧ミ該協約ノ締結ハ已ムヲ得サリシナル可ク
又締結直後ハ少クモ好果ヲ挙ケタリト云ヒ得ヘシ
而シテ一般ハ該協約ニ依リ日本人ノ渡來數ヲ一年四百人
ニ制限セリト信シ居リ余モ最近迄而カ信シ居リタルカ實

ハ統計ノ示ス通り右制限数以上ニ多數入国シ得ルナリ或
点ニ於テハ殆ト無制限ト云フモ過言ニ非ス吾人ハ歐州大
戦中秘密協約ノ非ニ就キ聞ク處多カリシカ該移民協約ハ
秘密協約ノ適例ナル已ナラス実ハ不文協約ト云フモ不可
ナク尠クモ頗ル放漫ニ規定セラレタリ從テ紳士協約カ果
シテ忠実ニ履行セラレタリヤ否ヤヲ云フハ殆ト不可能ナ
リトス

加奈陀側ノ統計ニ依レハ協約締結以來過去十六年間加奈
陀ニ入国セル日本人ハ農夫一、一三九人商人一四五人商
店員四八四人鉱夫八人分類外七三七人ニシテ右ハ悉ク男
ナリトス紳士協約ハ農業労働者已ニ付規定シ機械工店員
鉱夫農夫ニ付テハ何等ノ規定ナキニ依リ右列記ノ者ハ何
レモ入国ヲ拒否ス可キ者ナリ分類外ノ者モ果シテ如何ナ
ル者ナリヤ頗ル疑ハシ故ニ日本政府カ果シテ忠実ニ協約
ヲ遵奉セリヤ否ヤヲ云フハ頗ル困難ナル事ナリ

余ハ只今手許ニ在「オタワ」日本總領事編纂ノ「Facts
about Japanese in Canada」ナル小冊子ヲ有ス右小冊子
第十頁日本労働者加奈陀入国統計ニ依レハ一九〇八年ヨ
リ一九一二年ニ至ル十四年間ニ於ケル家内労働者入国總

数ハ一千十五名ナリ加奈陀側ノ統計ニ依レハ同期間ニ於
ケル日本人家内労働者ノ入国数ハ百十名ナリ右両政府ノ
統計ヲ比較スルモ移民入国数ヲ正確ニ知ルハ不可能ナル
ヲ看取シ得可シ
同様ノ困難ハ婦人入国ニ就テモ存ス紳士協約ニ依レハ在
加日本人ノ妻子ハ自由入国ヲ許ス事トナリ居レリ因テ日
本移民当初入國ノ際ハ多ク独身ナリシカ写真結婚ニ依リ
其妻ヲ呼寄スル方法ヲ採レリ
尙前述小冊子第十三頁ニハ日本人帰国数ヲ掲ケ九頁ニハ
日本人渡來數ヲ示ス此ノ両者ヲ比較スルニ一九〇八年ヨ
リ十四個年間ニ於テ日本人帰国数ハ來加數ヨリ多キ事百
十三名ナリ從テ一九二一年ニ於ケル在加日本人数ハ一九
〇八年當時ヨリ百十三名丈減少セル訳ナリ
然ルニ一九一年加奈陀人口調査ノ際在加日本人数ハ九
千二十一名ナリシヲ以テ一九〇八年當時ニ於テハ大体七
千五百人ト計算シ得可シ而シテ一九二一年人口調査ノ結果
ニ依レハ在加日本人数ハ一万五千八百六十八名ニ上り
十四年間ニ約十割ノ増加ヲ見タル次第ナリ

米国ニ於テモ加奈陀ト極メテ類似ノ事情アリ曾テ米国政
三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五七

府ハ排日法案提出ノ意向アリタルカ日本政府ノ抗議ニ依リ遂ニ加奈陀ト同様紳士協約ヲ締結スルニ至レリ

然ルニ一方支那移民排斥法ヲ制定セル結果在加州支那人數ハ五割ノ減少ヲ見タリ

日米紳士協約ニハ加奈陀トノ協約ノ如ク四百ト云フカ如キ制限ナク絶対入国禁止トナリ居ルモノノ如シ而モ支那人々口カ五割ノ減退ヲ見タル同期間ニ於テ在加日本人数ハ二万五千ノ増加ヲ見タリ此レ即チ紳士協約力米加双方ニ於テ失敗ニ了レルヲ示スモノナリ

余ハ日本政府カ紳士協約ノ履行ニ関シ不誠実ナリト云フ可キ証拠ヲ有セアルモ結果ニヨリテ此レヲ見ルニ紳士協約ハ制限ノ効果ヲ挙ケ得サル而已ナラス加奈陀ニ於テハ二倍ノ増加ヲ見ルニ至レリ而已ナラス多数ノ日本婦人ノ渡来ト殆ト加奈陀人ヨリハ四割方多キ其ノ出産率トニヨリ在加日本人数ハ弥カ上ニモ増加シ加奈陀ノ経済界ニ一波瀾ヲ惹起スルニ至レリ

今叙上ノ日本移民問題ノ沿革ヲ概括スレハ第一ニ放漫ナル紳士協約締結セラレタリ

右協約ハ日本政府ニヨリ遵奉セラレタリトスルモ日本國

然レトモ遂ニ米国ニ於テハ移民問題カ國家的問題ナル事ヲ説得シ得タル結果上下両院共ニ大多数ヲ以テ排日条項ヲ通過セリ
吾人ハ今ヤ歐州ノ独逸ト共ニ亞細亜ノ独逸ヲ有ス日本ノ外交ハ独逸流ナリ今回ノ事件ニモ日本ハ威嚇ヲ以テ推シ寄セタリ

遮莫今次米国議会ノ行動ハ実ニ余ニトリテハ數年來経験セサル最モ満足ナル事件ナリ余ハ今ヤ「救ハレン日ハ近ツケリ」ト感セサルヲ得ス而シテ米国議会ノ排日条項通過ニヨリ自然日本人ハ加奈陀ニ殺到スル事トナル可キニ依リ此ノ点ニ関シ吾人ハ慎重ナル考慮ヲ払ハサル可カラス余ハ先般本院ニ提出セラレタル紳士協約改訂ニ關スル往復文書ヲ見テ失望セサルヲ得ス

第一ニ数コソ制限シタレ共尚吾門戸ヲ開放シ居リ殊ニ婦人ノ入国ヲ自由ニシ居リ

第二ニ加奈陀側ノ統計ニ依レハ協約改訂ノ当初コソ日本移民ノ入国数減少シタレ共其後ハ又増加シ来レルノ事実アリ若シ協約ニシテ或種ノ移民入国数ヲ百五十トセス日本人ノ絶対入国数ヲ百五十トシタランニハ一層満足ナル

民ハ其網ヲ潜リ殊ニ婦人入国ノ点ニ於テ然リ其ノ結果ハ在加日本人数倍加スルニ至レリ
次ニ日英通商条約アルモ是ハ加奈陀移民法ノ規定ヲ制限シ得ルモノニ非ス更ニ吾人ハ最近議会ニ於テ公表セラレタル改訂紳士協約ヲ有ス右改訂協約ハ移民入国数四百ヲ百五十二制限セルカ制限ス可キ移民ノ種類ニ関シテハ旧協約通リトシ何等改訂スル処ナシ

最後ニ吾人ハ二年前本院ヲ通過セル東洋移民有効制限ニ関スル決議ヲ有ス

而シテ米国ノ近状ヲ見ルニ加州ニ於テハ數年前日本人ノ土地所有若クハ賃借ヲ禁止スル法律ヲ制定シ右立法ハ米国高等法院ノ是認スル處トナレリ此レニ依リ約五万ノ日本ハ其職業ヲ奪ハレタルニ依リ彼等ハ自然加奈陀ニ入シタルカ米国議会ニ於テモ本院ニ於ケルト同様東部諸州ノ議員ニ對シ日本移民問題ハ決シテ太平洋沿岸ニ限ラレタル問題ニ非サル事ヲ説得スルニ多大ノ困難アリタル趣ナリ

結果ヲ得タリシナラン其レモ永久的解決方法トハ思ハレサルモ一時的解決方法ト云ヒ得可シ蓋シ此ノ場合ニ於テハ移民ノ入国ヲ許否スル權力ハ吾レニ在レハナリ東洋人ノ入国制限ニ關スル安全ナル手段ハ唯此ノ一法アル已嘗テB・C州ニ於テハ漁業「ライセンス」下付ノ事ヨリ日本系漁夫間ニ争論惹起シ其ノ結果端ナクモ多数ノ日本系漁夫ハ帰化証借用其他ノ不正手段ニ依リ「ライセンス」ヲ取得シ居タル事実判明セリ
如斯状態ナルニヨリ紳士協約ノ履行ハ極メテ困難ナルヲ以テ余ハ断然紳士協約ノ撤回ヲ希望スルモノナリ
余ハ加奈陀カ米国ニ先ンシ断乎トシテ紳士協約ヲ廢棄シ以テ国威ヲ宣揚セん事ヲ希望シタルモ不幸ニシテ此ノ機会ヲ逸シタリ

現内閣ハ成立以來米国トノ「ハリバット」条約締結等ニ於テ加奈陀ノ国民的個性ノ發現ニ努力シタルカ加奈陀ノ国民的存在ヲ示スニハ移民問題ハ一層重要ナリ
日本ハ支那人及朝鮮人ノ日本移住ヲ制限シ居ル以上加奈陀カ日本移民ヲ制限スルモ日本ニ抗議ノ理由ナシ吾レハ最早自國ノ移民管理權ヲ他國ノ手ニ委スルヲ得ス入國ノ

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五八

許否ハ加奈陀ノ決スル處ニシテ何人モ入國ノ権利ヲ主張スル能ハス

有史以来如斯重大ナル国家ノ権利ヲ武力的圧迫ニ依ラスシテ他国ニ譲渡セル例ハ加奈陀ト米国トヲ除キ他ニ之レヲ見ス而シテ米国ハ今ヤ此レヲ破棄セリ余ハ吾レモ亦米国ノ例ニ倣ハシ事ヲ希望ス

抑紳士協約ハ一時代前ノモノニシテ當時吾レハ国民トシテモ幼稚ノ域ヲ脱セサリシナリ然レトモ今ヤ吾人ハ成人セリ国民トシテ完全ノ権利ヲ有ス

豪州新西蘭ト同様白人加奈陀ノ理想ヲ建設スルノ権利ヲ有ス

余ハ先般本院ニ発表セラレタル改訂協約カ移民問題解決ノ最終ナリト考ヘサル様政府ニ希望ス

余ハ政府カ如斯協約ヲ破棄シ一九二二年五月本院ヲ通過シタル東洋移民有効制限ノ決議ノ趣旨ニ副フ可キ法律案ヲ本院ニ提出セラレン事ヲ切望ス

余ハ首相カ白人加奈陀ノ建設ノ為ニ猛進セム事ヲ願望シテ已マサルモノナリ

尚為念別紙(翻訳省略)通り当日ノ下院議事録一部及添付候條詳細ハ

三四四

右ニ依リ御承知相成度此段及御報告候 敬具

二五八 五月十一日(着) 在ヴァンクーヴァー五明領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

ルミュー協約改訂ニ関スル公文ノ一部「ヴァンクーヴァー・プロビンス」紙ニ公表サレタ

ル件

第六九号 極秘

「イースター」休暇以来「オタワ」ヨリ帰省中ナル当州「ニューウエストミンスター」選出領代議士ニテ平素排日ヲ標榜シ居ル「マコーレー」ハ七日当地「プロビンス」紙ニ今日ノ日米移民紛議ニ関連シテ客年ノ日加間移民問題交渉事件ニ言及シ日本カ加奈陀政府ノ要求ニ応シ僕婢及労働者毎年ノ新入国数ヲ百五十人ニ限定シタル顛末ニ付「キング」首相カ現領議会ニ提出セル公文書ナリトシテ太田總領事ト同首相トノ間ニ往復シタル書翰ノ一部ヲ発表シ且国内問題ニ外国ノ干与スルハ絶対ニ許スヘカラサルコトナルモ本件ニ対スル「キング」首相努力ノ成功ハ賞讃ニ値スト付言シ居レリ切抜郵送

在米大使及在オタワ總領事ニ転電セリ

中ニ含ミ居ルヤ不明ナリ

二五九 六月六日(着) 在オタワ松永總領事ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

日本人移民制限問題ニ関スルロブ移民大臣及ジキング首相ノ答弁報告ノ件

第一六号

二日移民大臣 Robb ハ B・C 州出身議員 Stevens ノ質問

ニ対シ

〔一〕昨財政年度中ニ日本人来住者数四四八名

〔二〕昨年ノ協定ノ結果日本政府ハ家内労働者及農業労働者ノ加奈陀入国数ヲ一五〇名ニ限ルコトナリ

〔三〕政府ハ日本政府ニ対シ日本人移民制限ニ関スル法律ヲ通過セシメサルコトヲ約シタルコトナン

〔四〕政府ハ日本移民制限ニ關シ昨年通過セル支那移民法類似ノ法律制定ヲ要求セル晩香坡又ハ B・C 州小売商組合ヨリノ書信ニ接シタリ

〔五〕此上日本移民ヲ制限スルコトノ可否ニ付テハ目下考慮中ナリ

ト答ヘタル処翌三日右 Stevens ハ

〔一〕前日ノ移民大臣ノ答弁ニテハ契約移民ノ入国ハ一五〇名

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二五九 二六〇

二六〇 六月十六日 在オタワ松永總領事宛(電報)
ルミュー協約ハ日米紳士協約ノ存廐如何ニ影響サレザル旨誤報是正方訓令ノ件

第一三号 極秘

三四五

貴電第一六号末段ニ関シ

紳士協約廃止ノ曉從來行ヒ来レル墨西哥移民ノ渡航制限ハ自然我ニ於テ其義務ナキニ至ルヘキモ加奈陀トノ「ルミー」協約ハ紳士協約ノ存廢如何ニ依リ何等影響ヲ蒙ルヘキモノニ非サルハ勿論ノ儀ナルニ付右御承知ノ上必要ニ応シ本件誤報是正方可然御取計アリタシ

晚香坡ニ転電アリタシ

二六一 六月十九日 幣原外務大臣ヨリ
在オタワ松永總領事宛(電報)

力ナダニ於ケル排日運動防止方ニ関シ在邦

英國大使來談並ビニ排日情勢ニ付干注意方訓

令ノ件

第二四号 極秘

本月十六日在本邦英國大使ハ本大臣ニ対シ加奈陀ニ於ケル排日狀況ニ付テハ自分ニ於テ何等特別ノ情報ヲ有セサレトモ新聞電報ニヨレハ何等カノ運動アルモノノ如クナル所之カ防止方ニ付自分ニ於テ出来得ルコトアラハ喜ンテ援助致スヘキニ付前広ニ申出アリ度旨ヲ語レリ

加奈陀最近ノ排日運動ニ付テハ貴電第一六号首相ト「スチ

ーブンス」トノ応答以外貴官ヨリハ報告ニ接シ居ラサル所

米國ノ影響モアリ加奈陀ニ於ケル同問題ニ意外ノ進展ヲ見ルカ如キコトナキヲ保シ難キニ付申ス迄モナキ義ナカラ貴官ハ此際特ニ貴地情勢ニ充分御注意ノ上若シ何等カノ処置ヲ講スル必要ヲ認メラル場合ニハ相当前広ニ御報告アリタシ

晚香坡ニ転電アレ

二六二 六月二十八日(着) 在オタワ松永總領事宛(電報)

力ナダ議会ニ於ケル排日論議ニ付キ報告並ビ

ニ排日問題ニ關シキング首相ト会談ノ件

第二六号 極秘

本期ノ加奈陀議会ニ今日迄現ハレタル排日關係事項ハ三月及四月中「ニール」及「マコーレー」ノ日本移民ニ關スル質問並演説ト先頃「ステーブンス」ノ質問アリタルニ止マリ質問ニ對スル政府當局ノ答弁振リト共ニ其ノ都度報告ノ通ナリ而シテ議会ハ大体七月半ニ閉会ノ予定ニテ最早時日モナキ故今後B・C州議員ヨリ排日的言論ヲ提出スルコト

本移民問題ニ付テハ英國政府モ加奈陀政府ト同一政策ノ見

アリトモ大事ニ至ラスシテ今期議会ヲ結了スル見込ナル處貴電御來示ノ次第アリタルヲ機トシテ「キング」首相ニ面會ノ上米國排日法ノ成立カ加奈陀ニ影響セんコトヲ憂慮スル旨ヲ述ヘタルニ首相ハ夫ハ尤ノ次第ナリ然レト自分ハ衷心ヨリ日加ノ親善ヲ希望シ且両国通商關係ノ増進ヲ念トスル故極力排日議員ノ要求ヲ撃退シ排日的法案ノ提出又ハ成立ヲ防止スル覺悟ナリ此旨政府ニ伝達セラレタシ尤モB・C州議員ノ排日問題要求カ将来ニ繼續スヘキハ勿論ナル處排日議員ハ日本移民ノ加奈陀入國數カ現行協約ノ範囲ヲ超過シ居ルコトナキヤノ疑ヲ質問スルコト屢々ナリ其範囲内ナルコトハ日本政府ノ統計表ノ明示スル処ニシテ加奈陀政府ハ何等疑惑ヲ挾マサルモ排日議員ヲ満足セシムルニハ加奈陀政府官憲ノ証明ニ俟タサル可カラス然ルニ加奈陀側ノ統計ハ移民協約ノ實行狀況ヲ明ニスル目的ヲ以テ作製スルモノニアラサルカ故入國者分類ノ方法ヲ異ニシ從テ排日議員ヲ満足セシムルヲ得ス之ニ就テハ統計作製方當局ト相談中ナルモ若シ日本駐在ノ加奈陀官憲例ヘハ貿易事務官ニ於テ渡航者旅券ヲ裏書スル如キ制度ヲ採用シ同官ヨリ報告セシムルコトトセハ加奈陀側ニテモ満足ナル統計ヲ作り得ル

次第ナリトテ本官ノ意見ヲ求メラレタルニ付本官ハ加奈陀側ニテ満足ナル統計ヲ作ラルコトハ最モ希望セル処ナルカ右ノ如キ制度ハ裏書ヲ行フ官吏ニ於テ渡航出願者ノ身分再渡航ノ精神等ニ立入りテ取調ヲ行ヒ多クノ時日ヲ要スルコトトナルヲ保シ難ク渡航者ニ多大ノ不便ヲ与フル虞アリト述ヘタルニ首相ハ單ニ統計作製上必要ナル記録ヲ取レハ可ナル故只日本領事ノ旅券査証ノ際之ヲ行フコトモ一法ナラン尤モ之ハ差当リ自分一個ノ思付ニテ熟考ノ結果ニアラス本官ニ於テモ研究シ吳ル様トノ依頼アリ本官ハ矢張リ加奈陀入港地ノ移民官ニ於テ移民協約ニ適応スル渡航者ノ分類ヲ採用セシムルコト最適當ナリト思考スルニ付首相ニハ追テ第一案トシテ其ノコトヲ勧説シタキ考ナルモ渡航者ニ何等格別ノ不便ヲ与フルコトナクシテ駐日加奈陀官憲又ハ英國領事カ渡航者ノ身分等ヲcheckスルコトハ格別差支ナキコトト思ハルニ付第二案トシテハ先方ヨリ具体的実行方法ヲ提出ヲ俟チ考量シタシトノ意味ニテ回答シ然ル可シト愚考ス就テハ右ニ付何分ノ儀御電訓相成タシ

尚序ニ貴電英國大使來談ノ次第二付一言シタルニ首相ハ日

三一 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六三 二六四

三四八

地ニ立ツナラン然レト本件ハ加奈陀ニテ處理スヘキ事項ナリト云ヘリ近時加奈陀ハ外交自主権ノ確立ニ努力スルト共ニ自己専管ノ涉外問題ニ付テハ英國ノ干与ヲ好マサルニ付御含置ヲ請フ

二六三 七月三日

幣原外務大臣ヨリ
在オタワ松永總領事宛(電報)

キング首相提案ノカナダ官憲ニヨル旅券裏書

ニ関シ回訓並ビニ英加關係ニ付牛注意方訓令

/件

第二十七号 極秘

貴電第二六号ニ関シ

在本邦加奈陀官憲ヲシテ渡航者ノ旅券ニ裏書セシメ統計作成ニ便セシムルニ対シ當方ニ於テハ別ニ異存ナキ處從來加奈陀行旅券ニ対シテハ在本邦英國領事カ査証シ居ル行懸アルヲ以テ加奈陀政府ニ於テ英國政府ト右ニ付キ了解ヲ遂クルコト適當ナルヤニ思量セラル就テハ貴官ハ右ノ趣旨ニ依リ可然「キング」首相ニ御回答ノ上具体的の手続ニ關シ先方ノ意見問合セノ上回報アリ度シ

尚加奈陀ト英本国トノ間ニ於テハ貴電末段ノ如ク極メテ機

二六四 七月十三日(着) 在オタワ松永總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

日本移民ノカナダ入国数ニ關スル移民大臣

答弁報告ノ件

第三三号

往電第二九号ニ關シ

移民大臣「ロップ」氏ハ九日左ノ如キ答弁ヲ為セリ

(一)一九一八年度ヨリ一九二三年度ニ至ル各年度(三月末ニ終ル)及本年四、五両月ニ於ケル日本婦人入加數各五三〇、三八九、三三七、三〇〇、一九七、一一三、七三〇同期間日本勞働者入加數、一一八、七七、三四、一一三、二六、五九、一二

(二)同期間勞働者及婦人以外ノ日本人入加數、四四〇、一二四五、一六〇、一四八、一四六、一五六、五〇

四一九二〇年度以後本年五月ニ至ル期間日本人脱船者數、

七、一三、三六、三七、三一

二六五 七月十五日(着) 在オタワ松永總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

下院予算委員会ニ於ケル日本人移民制限禁止

ニ關スル討議模様報告ノ件

第三五号

十一日夜下院 Supply Committee ニ於テ移民省予算事項討議ノ際 Neil ハ東洋移民ヲ有効ニ制限スルコトヲ要求セル一九二一年ノ下院決議ヲ指摘シ政府ハ支那移民ニ就テハ排斥法ノ制定ニ依リ満足ナル解決ヲ與ヘタルモ日本移民ニ就定不備ニシテ百五十ナル制限ノ適用ハ特定ノ二階級ニ限ラレ其以外ノモノノ入国甚々自由ナレハ実際多数ノ入国者アルコトハ移民省作成ノ統計ニ微スルモ明ナリトテ数字ヲ規定シ紳士協約ハ結局失敗ナリト断シ米國カ最近排日法ヲ制定スルニ至リタル次第ヲ述ヘ今ヤ事態ハ加奈陀ニ於テモ急転セリ日本ハ宜敷ク真実ノ移民制限ニ就キ此際直ニ我政府ト協議スヘシ今日ナレハ猶遲カラス若シ今日ノ機會ヲ逸セハ何等米國同様輿論ノ発露(排日法制定ヲ指ス)トナルヤモ

〔一〕労働者(一九二二年度五〇日本年四、五月)一一' general labourer ムハシト登記セハル

〔二〕婦人及労働者以外ノモノ(一九二二年度farmers 一九、children of farmers class 一九' children of general labouring class 一九' mechanics 一九' children of artisan class 一九' traders 一九' children of traders class 一九' unclassified 一九' children of unclassified 一九'

〔三〕本年四、五月(類別前項ニ同シ)一一五、ナシ、四、一、七、ナシ、一〇、一、七、四

晚香坡ヘ転電セリ

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六五

三五〇

測ルヘカラスト説キ進ンテ本問題ハ單ニB州ノ問題ニアラス全加奈陀否世界的問題ナリトテ黄禍ヲ論シ白人優越主義ヲ唱ヘ日本移民ノ有効制限案トシテ支那移民同様外交官加奈陀出生ノ日本人商人及学生以外ハ一切之ヲ排除スヘク其方法ハ

一紳士協約ヲ破棄シ一九一九年ノ移民法第十三条ヲ適用スルコト（同化シ難キ種族排除ニ関ス）

二英領植民地ニ於テ実施セラレ居ル如ク日本ト協議シテ日本本人ノ旅券ニ対シ英國領事ハ全然査証ヲ為ササルコトノ何レカニ依ルヘシト論シタリ

之ニ対シ移民大臣ハ日本ハ其約束ヲ忠実ニ守リツツアリ又政府ハ目下日本代表者ト協議シツツアリ又東洋人移動ノ実況ヲ明ニスル為適切ナル記録ヲ作成スル方法ヲ講シツツアリ猶加奈陀カ日本ニ対シ其有利ナル貿易關係ヲ有スルコトモ考慮セサルヘカラス政府ハ日本トノ現協約ヲ励行スル外何等意図ヲ有セスト答へ又首相ハ本件ノ重大ナルニ鑑ミ予ハ日本人來往ノ統計ニ関シ過日日本總領事ト会談シタルコトアリ實ハ我方ノ統計ハ再渡航ト新渡航トノ区別明瞭ナラス之ニ反シ日本側ノ統計ハ明瞭ナリ我統計作成ニ就テハ曩

二移民大臣ニ注意シ置キタルカ我統計ニ依ル日本人入国者中ニハ多數ノ再渡航者アリト信ス入加日本人ヲ大別スレハ労働者ト非労働者ナリ而テ労働者ニハ契約労働者アリ農業労働者アリ家内使用人アリ（Neil外ニ妻アリト叫フ）日本トノ現協約ハ此等労働者ノ入国数ヲ百五十二制限セリ此制限ヲ励行セハ加奈陀ニ於テ本制限ニ強ク反対スルモノナカルヘシ但百五十ノ制限ハ完全ニ確保セサルヘカラス（此時Neilハ移民ノ全入国数ヲ百五十二制限スルナラ未タシモナレト婦人ニ制限ナキ故何某ノ妻ナリトテ入国シ子供ヲ生ムト言フ）妻ノ入国ニ関スル日本側トノ諒解ニ就テハ移民省ニテ日本政府ト交渉中ナリ其点ニ就テハ種々ノ場合ヲ生スル抜路アリト認ム却説契約労働者ハ加奈陀政府ノ承諾ナケレハ入国ヲ許ササルコトナレルカ從来政府ハ右承諾ヲ与ヘタルコトナク将来モ之ヲ与フル意志ナシ

依テ入加者ハ農業労働者ト家内使用人ナリ此外再渡航者及在加者ノ妻子ナリ余ハ日本政府カ協約遵守ニ努力シツツアルヲ信ス但シ政府以外ニ如何ナル奸策ヲ弄シ移民入国ヲ計ル者アルヤ測リ難キ故之ヲ防遏スル手段ヲ執ルコト必要ナリ余ハ日本政府トノ関係ニ就テハ飽ク迄名譽的ナランコト

ヲ欲ス去レト日本政府ハ制限超過防止ノ為我ニシテ何等処置ヲ執ルコトニ反対スルコトナカルヘシ尚付言シタキコトアリ米國最近ノ行動ノ結果目下日本ニ於ケル感情ハ幾分緊張セル如シ之ハ余程考量ニ儘スルコトナリ吾人ニシテ米大陸ニ対スル日本ノ反感ヲ緊張セシムルコトナクシテ日本移民ヲ有効ニ制限スル目的ヲ達シ得ハ終局加奈陀ノ利益ナリ余ハ日本人ハ加奈陀ニ対シ甚々好意ヲ有スト信ス故ニ加奈陀ノ商人力時局ノ心理ヲ利用スルニ於テハ日加貿易ヲ發展セシムヘキ好機会ニシテB・C州ノミナラス加奈陀全国民ヲ益スルコト多大ナラン政府ハ米國カ妥協手段ニ依リ其目的ヲ達スルニ失敗シタル處ノモノヲ外交手段ニ依リ獲得スルニ努力スル方針ヲ引続ラントスルモノナリ尤モ前述ノ制限方法ニテ実効無キ場合ハ相当ノ制限ニ就キ考量スルコトヲ辞セサルヘシト答ヘタリ

次ニMcdride（B・C州出身）ハB・C州ニ於ケル日本人出産率ノ大ナルコトヲ述ヘ少クトモ日本婦人ノ入国ヲ禁止センコトヲ政府ニ勧説シ Woodsadeth（「ウイニペグ」選出労働党）ハ現下國際關係ノ不安定ナルニ際シ國際間ノ輒々回避スルコト心要ナリトテ首相ノ所見ニ満足ノ意ヲ表

シ Neilノ白人優越主義ヲ非難シ入國ヲ許可セル亞細亞人民市民權所有ヲ許可スヘシト説キ Tolmie（B・C州出身）ハ東洋移民制限ハ紳士協約乃至諸規則ヲ執行シ其実効ヲ挙ケサルヘカラスト述ヘ Lader ハ過日當局ヨリ受取りタル統計ニ拠レハ最近四年間日本婦人ノ入國数ハ毎年大差無キカ其数ハ相當多數ニ上レリ労働者ノ数ハ比較的少數ナルモ労働者及婦人以外ノ階級ニ属スルモノ多數ナリ當局ニ於テ今回彼等ヲモ充分制限セラレンコトヲ希望スト述ヘタリ

晚香坡ヘ転電セリ

二六六 七月二十二日（着） 在オタワ松永總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

排日移民問題ニ関シキング首相ト会談ノ際首相ヨリ写真結婚婦人入國ニ關シ疑惑表明ノ件

第三九号 極秘

（一）往電第三五号 Neilニ対スル同首相ノ答弁ニ就キ本官ノ所感ヲ問ハレタルニ付本官ハ右ハ排日論ニ反対スル加奈陀政府ノ態度ヲ極メテ明白ニ表明セラレタルモノトシテ

本官ノ甚々感謝スル所ナリ右言明ハ日本ニ於テモ極メテ好印象ヲ与ヘタルコトト信スト述ヘタリ右ニ付首相ハ実ハ右質問応答ニ先チB・C州選出ノ議員ト各別ニ内々懇

談シ現時局ノ関係ニ顧ミ本年ハ過激ノ排日行動ニ出テサルコトヲ説明シ置キタル次第ナリト述ヘタルニ付本官ハ

首相ノ周到ナル努力ニ対シ重ネテ感謝ノ意ヲ表シ置キタリ

〔其際首相ハB・C州議員ハ頻リニ写真結婚婦人ノコトヲ持出シ入国後不正ノ方面ニ転スルモノ多キカノ如ク論シ立ツルニ付此等婦人ニ就テハ嚴重ニ取締ヲ為シ度キ所存ナリ但シ bona fide ノモノニ就テハ其入國ヲ拒絶セントスルノ趣旨ニアラスト云ヘリ本官ハ首相ヨリ写真結婚婦人又ハ妻ノ入国ニ就キ何カ提議スルコトナキカト待チ設

ケタルモ別段之ニ就テノ申出無カリシ故當方ヨリ進テ問題トスルヲ避ケ单ニ写婚婦人ニ関スル疑惑ニ就テハ事実ヲ調査シ実際ノ証拠ニ基キ処理セラレンコトヲ希望スト述ヘタリ首相ハ今夏B・C州ニ旅行ノ予定ナルニ付其際本件モ篤ト研究スヘシト云ヘリ

〔来加日本人ノ旅券ヲ在本邦加奈陀官憲ニテ裏書スル件ハ

(参考)
一九二四年上五ヶ月間ニ於ケル婦人渡航者及帰國者
(外務省通商局作成)

月別	再渡航	呼 寄	使用人 内	計	非移民	帰國者
一月	七	一五		二二		一
二月	三	三六	一	五〇	六	二〇
三月	一八	三〇	四八	二	三	二二
四月	一五	四七	六二	五	三八	
五月	一四	三一	四五	九	三六	
計	六七	一五九	一一七	二二	一二七	

二六八 十月六日(着) 在ザンクーヴィー五明領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ルミニュー協約改訂問題ニ関スル新聞報道ノ件

第九六号 極秘

二日付「プロビンス」ハ「オタワ」発トシテ日本カ国際連盟ニ移民問題ヲ提唱シタルコトハ加奈陀ノ注意ヲ喚起シ之カ為「ルミニュー」協約ノ改訂問題ハ再燃スルニ至ルヘシ本年領議会ノ終期ニ於テ「キング」首相ハB・C州議員ノ質問ニ対スル答弁中妻ノ入国ニ就テハ種々ノ抜ケ路アリ此点

首相ニ於テ更ニ研究ノ上追テ何分ノ回答ヲ為スコトナレリ(貴電第二七号関係)
晚香坡ヘ転電セリ

第九八号 極秘

往電第九六号ニ閑シ

三日「プロビンス」ハ「オタワ」発電トシテ日加両政府間ノ交渉懸案タル婦人ノ入国数ハ最近「オタワ」移民省ノ發表シタル統計ニ依レハ本年上五ヶ月間ニ一三九名ニシテ客年一ヶ年間ノ二三三名ニ比シ其比例上著シキ增加ナル旨ヲ報シ居レリ

在「オタワ」総領事ヘ転電セリ

(欄外註記) 移民課統計、上五ヶ月間渡航者二二七名中、再渡航

(六七) ヲ除キ一六〇名。客年一ヶ年ノ渡航者二九八名中、再渡航者一〇九ヲ除キ一八九名。

ニ就テノ日本側トノ諒解ヲ得ル為日本政府ト交渉中ナリト述ヘタルカ其後右交渉ノ成行ハ今日迄曖昧ニ付サレ居ルモ首相カ今回ノ西部旅行ノ途次B・C州ニ到着セハ必スヤ本問題ニ対スルB・C州議員ノ督促ヲ受クルナルヘシトノ電報ヲ掲ケ居レリ
首相ハ本月十八日当地着ノ予定
「オタワ」英ヘ転電シ米ヘ暗送セリ

二六九 十一月六日 在ザンクーヴィー五明領事宛(電報)

カナダ政府ノ日本人移民措置ニ閑シ在本邦英

國大使ヨリ内話ノ件

第四八号 極秘

左ノ通「オタワ」総領事ヘ転電アレ

往電第二七号ニ閑シ十一月四日在本邦英國大使本大臣ヲ來訪シ本国政府ヨリノ情報ニ依レハ加奈陀ニ於テハ日本移民ニ対シ此際何等特別ノ措置ヲ採ルノ意向ナシ尤セ(一)写真結婚ノ禁止、(二) Domicile 問題ニ付テ或ハ何等法律制定ニ至ルコトアルヤモ計リ難キモ何レノ場合ニ於テモ其ノ法規ハ外国移民一般ニ適用セラルコトトスヘク日本人ニ対シ差別

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二六八 二六九

的待遇ヲ与フルカ如キコトナシト内話アリタリ

尚右ノ中 Domicile 問題トハ何ヲ意味スルヤニ付大使自身ニ於テモ承知セサル由ナルカ右ニ付貴官ニ於テ何等心当リアラハ御回電アリタシ

二七〇 十一月十三日(着) 在オタワ松永總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

エリオット大使内話中ノ domicile 問題ニ関スル件

第五二号 極秘

在晩香坡領事宛貴電第四八号後段 domicile 問題トハ本官ニ於テ何等承知セサルモ多分加奈陀移民法第二条D項ニ規定スル domicile ノ件ニ関係スルモノナラント思考ス(domicile ノ件ハ加奈陀ニ五年間住スルニ依リ之ヲ獲得シ之ヲ有スル者ハ一旦出国シタル場合モ同項第三号ノ条件ニ準拠スル限り同条G項第一号ニ依リ再渡航者トシテ入国ヲ許容セラル) domicile ノ件ト日本移民トノ関係上問題トナリ得ヘシト本官ニ於テ想像スルモノヲ挙クレハ

(一) 領事ノ発給スル再渡航証明書付与資格 (domicile ノ得タルモノニ限ルトシ又ハ不正入國者ヲ除外スルカ如

キ) 及

〔〕帰国者登録問題アリ(客年三月十二日付在晩香坡領事發大臣宛機密第七号再渡航者ノ帰国ニ際シ登録ニ関スル件及同年六月二十一日付当館發大臣宛機密第一二号加奈陀移民官ノ発給スル再渡航登録證明ニ関スル件參照)

尚写真結婚問題ニ関シテハ加奈陀政府カ日本婦人入国ニ関シ曩ニ議会ニ於テ言明シタル行懸モアリ(往電第三五号中段及同第三九号〔〕参照)殊ニ首相今回ノ西部旅行ノ際B・C州有力者ヨリハ種々ノ註文モアリタルコトト存スルニ付執レ次期議会迄ニハ何等申出アルヤ計リ難シト思考ス右ニ付本官ニ於テ心得置クヘキコトアラハ予メ御訓示置キ相成度シ

因ニ首相ハ八日朝西部旅行ヨリ帰府セリ現行移民法為念郵送ス

晩香坡へ転電セリ

二七一 十一月二十五日 在ヴァンクーヴア一五明領事ヨリ
幣原外務大臣宛

B・C州議会ニ於ケル東洋人雇傭禁止法案論

議ニ関シ報告ノ件

公第三三八号

(十一月十三日接受)

大正十三年十一月二十五日

在晩香坡領事 五明 砂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

東洋人男子ト白婦人トヲ同一家庭内ニ使用スル

コトヲ禁止スル法案ニ關スル件

目下開会中ナル「ビー・シー」州会ニ支那人及日本人男子ト白婦人トヲ同一家庭内ニ僕婢トシテ使用スルコトヲ禁止

スル法案(別紙甲号^(省略)ノ通リ)過般晩香坡選出議員「メリ・エレン・スマス」女史ニ依リ提出セラレ來ル二十七日

(木曜日) 第二読会ノ討議ヲ了シタル後委員付託トナル答

ナルカ本法案ハ前期ノ州会ニ同女史ノ提案ニテ州会ヲ通過シタル「婦女子保護法」(別紙乙号写及本年一月二十五日付公第二八号一九二二年「ビー・シー」州會議案ニ關スル報告第五項参照)ノ改正案トシテ提出セラレタルモノニ候

本法案ニ対シ若シ之レカ成立ノ暁ハ賃金其他ノ関係上其ノ目的トスル東洋人ヲ家庭内ヨリ驅逐スルヲ得スシテ却テ白人婦女子ノ家庭内ニ於ケル仕事ヲ奪フ結果ヲ來スヘシトノ

三 カナダニ於ケル日本人移民制限問題 二七一

三五六

同法案カ「レストラン」「ホテル」又ハ「オフィス」等ニ
働キ居ル使用人ヲモ含ム程度ニ拡張セラル如キコトナキ
限り日本人ノ受クル影響ハ軽微ノモノニ有之ソレニ当地支
那領事ハ目下「ヴィクトリア」ニ出張シ州政府当局ニ向ヒ
本法案ニ対スル抗議的陳情ヲナシ極力妨止ニ努メ居ルニ付
旁々本官ハ日本人会トモ協議シ内密某親日白人ノ手ヲ通シ
該法案ノ日英通商条約違反ノ点ニ付州會議員ノ注意ヲ喚起
スル手段ヲ取リタル外差向キ別ニ表立チタル妨止運動方法
ヲ取ルコトハ之ヲ避クルコトトシ専ラ同法案向後ノ成行ニ
注意致シ居リ候

右不取敢及御報告候 敬具

本信写送付先 オタワ總領事

二七二 十二月二十一日(着)

在ヴァンクーバー明領
幣原外務大臣宛(電報)

B・C州議会ニ於テ東洋移民抑制ヲ妨グル国

第一〇五号

十七日当州会ハ公第三三八号同國東洋人雇傭禁止法案ヲ議
事日程ヨリ削除シタルカ一方ニ於テ東洋移民抑制ノ妨ケト
ナルヘキ國際條約ノ廢棄ヲ「オタワ」政府ニ要求スル決議
案ヲ満場一致ヲ以テ通過シタリ州会ハ一両日中ニ閉会ノ旨
「オタワ」ヘ転電セリ

事項四 ブラジルニ於ケル移民制限問題

二七三 一月二十二日(着) 在伯国田付大使(ヨリ)

松井外務大臣宛(電報)

伯国ニ於ケル移民問題ニ関スル外務大臣トノ

会談内容ニ付キ報告ノ件

第四号

一月十七日「サン・パウロ」州銀行重役ニシテ同州統領ノ姻
戚ニ当リ外務大臣トモ親交アル Decio de Paulo Machado
氏本使ヲ來訪シ大ニ同州ニ於ケル本邦移民ヲ賞揚シ排日案
ノ不法ナル事及同地ニ於ケル同案ノ不評判ヲ述べ伯国政府
ハ斯ノ如キ法案ノ趣旨ニ反対ノ意向ヲ何等カノ形式ニ於テ
広ク之ヲ公表スルノ可ナルベキヲ認メ其ノ前日外務大臣ニ
面会セシニ其ノ結果同大臣ハ今回「リラグランデ・ド・スウ
ル」州ノ内乱鎮定(調和的ニ)ノ功ヲ奏シ帰京セル陸軍大
臣歓迎ノ宴席ニ於テ十七日夜「プロジェクト・アーヴィング」ノ趣旨
ヲ公表スル筈ナル事ヲ承知セル旨ヲ本使ニ告ゲタル處同夜
果シテ外務大臣ハ其ノ演説中大ニ日本人ノ「デスマップリ

四 ブラジルニ於ケル移民制限問題 二七三

三五七